

開催地名：香川県宇多津町	
開催日時	令和元年 11 月 24 日（日） 9：30 ～ 11：00
開催場所	宇多津町保健センター
語り部	安部 あきこ （福島県南相馬市）
参加者	自主防災会（防災リーダー、一般町民） 約 70 名
開催経緯	南海トラフ地震の発生確率が高まってきているが、香川県においては、災害に対しての意識が低いのが現状である。語り部のお話を聞くことにより、防災活動に対する意識を改善し、各自主防災会の積極的な活動を促すきっかけにしたいと思う。
内容	（１）はじめに 東日本大震災当日、自宅が海に近いこともあり、実際に津波が押し寄せている様子を私は避難場所から見ていた。原子力発電所から 20 キロメートル圏内だったこともあり、東日本大震災当日は避難指示を受けて避難していた。状況が落ち着いてからは、回帰支援センターでコミュニティー維持のために交流活動を続けてきた。平成 24 年 12 月からは、より多くの人たちに南相馬市の被災状況を語り継ぎたいという思いから、ボランティアガイドに登録し、市内の被災状況や復興状況を視察に来られた方に対し、自分が見聞きした体験を交えながら案内してきた。本日は皆さんに、少しでも震災のことをお伝えしたいと思う。 （２）地震発生 2011 年 3 月 11 日、東北地方で東日本大震災が発生した。私が住んでいた福島県南相馬市の人たちは、絶対安全だと言われていた原子力発電所が津波で被害を受けたため、避難を余儀なくされた。とにかく急いで避難する必要がある、本当に着の身着のまま、大型バスに乗って、目的地もよくわからないままに避難した。雪も降り寒い中、山形や群馬、長野、新潟、とにかく受け入れてくれるところに行くしかなかった。10 日くらいで家に帰ってこれると考えていたが、予想に反して避難生活は長引いた。 一番悲しかったことは、隣近所の人や、親子、親戚、友達がバラバラになってしまったことである。若い人たちは、ここには住めないと言って遠くにいていい、高齢者は移動が大変なのでそんなに遠いところには行けないため、とりあえず近隣に避難しているケースが多い。本当に家族がバラバラになってしまった。 避難所生活は、自分の家から何にも持っていくこともできなくて、体一つで体育館に避難したので大変であった。プライベートな空間は全くなかった。風邪が蔓延し、私も肺炎になってしまった。とにかく思い出したくもないほど辛い生活だった。

皆が避難して無人となった地元では、空き巣の被害も多く発生した。また、住民が全員避難してしまったため、動物が自由に生活していた。今までイノシシなど見たことがなかったが、かなりの数が住宅地に現れた。さらには、アライグマやハクビシン、そしてサルまでも住宅地に侵入してきた。現在もなお、これらの動物がかなり増えており、大きな問題となっている。

(3) さいごに

南相馬市は津波の犠牲者が 636 名、行方不明者と関連死を合わせると、500 名近くにのぼっている。震災後、時がたつに連れて、関連死やうつ病などの病気、自殺が少しずつ増えている。この事実からも、人とのつながりは非常に大事だと思う。自分一人で生きていくのは、絶対に無理である。お互いに支え合って、助け合って、協力しながら生活していくのが、地域のつながりだと思っている。

本日お越しいただいた皆さんは、津波なんてここでは関係ないと思うかもしれないが、災害はいつ発生するかわからない。この秋、福島県の本宮というところで台風による被害を受けたが、絶対にここは大丈夫と言いながらも、50 年ほど前にも同じような水害が発生して被害を受けたという。絶対という言葉は信じてはいけないと思う。



開催地より

実際に東日本大震災を体験された語り部のお話は具体的でわかりやすく、引き込まれた。原発からの避難のお話は特に印象的だった。今後の積極的な防災活動の糧にしたいと思う。